

会 議 録

会議の名称		第 12 回（仮称）研究学園小学校、研究学園中学校 開校準備委員会		
開催日時		令和 4 年 7 月 19 日（火） 開会 18：30 閉会 21：00		
開催場所		つくば市役所 2階 201 会議室		
事務局（担当課）		教育局 学務課		
出席者	委員	稲川綾子、橋本恭子、小泉悠、伊藤町香、相澤健太郎 野尻敏弘、富岡暁子、槇幸子、山崎順一、横田瑞香 石黒正美、中原卓治、澤木努、松延亮一		
	事務局	教育施設課係長草間匡人、学び推進課課長補佐岡野正人 学務課課長下田裕久、学務課課長補佐川又文江 学務課係長中山美希、学務課主任篠原周平 学務課主事霜鳥壮彦		
公開・非公開の別		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開	傍聴者数	0 人
非公開の場合はその理由				
議題		(1) 体操服について (2) 制服・体操服の規則について		
会議録署名人			確定年月日	年 月 日
会議次第	1 開 会 2 議 事 (1) 体操服について (2) 制服・体操服の規則について 3 その他 4 閉 会			

＜ 審議内容 ＞

1 開会

事務局：ただ今から第12回（仮称）研究学園小学校、中学校開校準備委員会を開催いたします。議事に入ります前に事務局からお願いとなりますが、本日の委員会はAIにより議事の文字起こしを自動で行うシステムを使用しております。このため、大変お手数ですが、御発言の際は必ずマイクを御使用くださいますようお願いいたします。マイク下のスイッチを押していただき、マイク中央部のランプが青く点灯しましたら使用できますので、よろしくお願いいたします。

2 議事

事務局：それでは、これより議事に入りたいと思います。議事の進行につきましては、委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員長：皆さんこんばんは。今日もよろしくお願いいたします。またメーカーの皆さん、お越しいただきましてありがとうございます。早速議事に従って進めていきたいと思っておりますけども、今日は体操服ということでメーカーさんと意見交換ということなので、資料を作成いただいた上で、試作品をお持ちいただいておりますので、まず簡単にご説明いただいでよろしいですか。お願いします。

ママダ：はい。では1のデザインからご説明させていただきます。1番につきましては、前回ご提案の際に説明させていただいたファイテンのブランドを使用したもの。そしてデザインの方ですが、現在の学園の森さんのデザインに近いものということで、紺ベースにブルーと白をプラスしたものでお持ちしています。デザインの方も、現在アシンメトリーの、片方がカーブになっているものをご使用ですので、それにより近く、こちらは少し形を変えまして、すっきりとしたデザインでのご提案をさせていただきました。素材につきましては、軽量でストレッチ性があるもののご用意になります。こちらは弊社の中では一番採用率の高い素材となっております。

そして2番、こちらもファイテンのブランドを残させていただいた商品となっています。こちらも今回は3デザインとも、紺ベースのカラー展開でのご提案をさせていただいています。先ほどのものとは違いまして、割と明るめの水色に近いようなブルーで、近隣校とはちょっと違うような色でのご提案させていただきました。商品の素材ですが、こちらは今の素材よりは少し薄くはなりますが、割とジャージらしい素材で、しっかりとしたものでご用意しております。一番の特徴は、毛玉になりにくいこと、丈夫さを一番の特徴とした素材となっております。最後に3つ目になります。これはプレゼンの際に、ご覧いただいた素材をそのまま使わせていただいております。こちら素材は、一番の特徴としまして、軽量とコンパクト性、そして防風機能になっています。前回ご要望いただいたときに、反射に特化したものも一度ご覧になりたいというご要望でしたので、こちら先ほど見ていただいた方もいらっしゃると思いますが、袖のラインや襟下、胸、あとパンツの方にも、すべてにおいて反射の機能を付けさせていただいている商品となります。こちら、素材と機能の方に重きを置いている分、ブランドの方は弊社の自社ブランドで、スポーツブランドは使用しない形でご準備させていただいております。コーディネートですが、つくば市内、あまり上下別々の色の学校さんは少ないと思いますので、こちらも色で少し差がつけられるように、上下別々の色でご用意をさせていただきました。ではまずTシャツ「あ」ですね。資料の方が絵では紺色になっていますが、今回は水色の切り換えで、ご用意させていただきました。こちら、プレゼンの時に見ていただいた素材で、泥汚れが付きにくく落ちやすい、そして透けないタイプの白のTシャツでのご用意をさせていただいております。そしてもう1つ「い」ですね。こちらは今回あまりご採用ないVネックのタイプで、襟元は汚れがなるべく目立たないようにちょっと色物を差したデザインでのご準備になります。素材の方は透けを考慮しまして、表側がポリ

エステル 100%、肌側に綿を 20%付けさせていただいていますので、現行よりは乾きも良いですし、汚れも、表がポリエステルなので付きにくい素材となっております。肌側が綿ですので、肌にもやさしいタイプでのご準備になります。最後にこちら、ご要望ありましたカラーの T シャツを今回は紺色でご準備させていただきました。こちら、後で触っていただいたらわかると思うんですが、お色ものになりますので透けが気にならない分、一番薄い素材でご準備させていただいています。だいたい他のものと触り比べると、薄いタイプになりますので、また後程お手に取っていただく時間を設けられたらなと思っています。以上となります。

委員長：はい。ご説明ありがとうございます。皆さん何か気になった点とかあれば、ご質問とかお願いできればと思いますけども、いかがでしょうか。私から何点か質問というか、今回デザインと機能でこういうパターンをご提案いただいておりますけども、デザインがこれで、デザインが例えば 1 で、機能は 2 のやつとかその辺の組み合わせがどういうところまで可能なのかを教えていただければと思います。

ママダ：はい。今回ご提案させていただいた、1、2、3のものに関してなんですけども、例えば 1 のものの素材ではなくて、2 の素材で 1 のものとか、そういった形で、最終的にお作りすることは可能です。ただ若干の、例えば、切り換えは水色や青が今回ありますけども、別の素材で切り換えのものを作りますと、若干の色の差とか、そういったものは出る場合がありますので、そういったところをご理解いただければと思います。

委員長：はい、ありがとうございます。他、皆さん何かありますでしょうか。

実際触った感じでの意見とか、あればと思いますけども、何かありますか。

委員：学校の名前を入れると、背中と胸あたりになるかと思うんですけど、そうなるとお値段っていうのはどれぐらいに変わってくるのか教えてください。

ママダ：はい。どのような方法で、手法でマーキングするかということでも変わってはくるのですが、例えば胸マーク1色のもので、例えば学校の名前、横文字等によく入れていらっしゃるかと思えますけども、今ざっくりで申し上げますと、大体胸マークで300円から400円、バックプリント1色のもので、この近隣ですと、竹園東中さんとか大きいマーキングを入れていますが、その辺で400円から500円ぐらいの価格にはなっていないかと思えます。あと入れる素材、手法によって、若干それは前後いたします。

委員長：他に皆様、質問とかいかがでしょうか。はい、どうぞ。

委員：今後の選定の流れの確認にもなるんですが、この後この3つから1つを予備調査的に選ぶタイプを選ぶということによろしいですか。

委員長：その辺はまだ、事前に少し委員の中でお話した限りで決まっていらないと思うんですけども、感覚的にはなかなか、このメンバーだけで1つ絞り込んでとか、何か決め手に欠けると思うので、1つの案として、デザインだけ1つに絞り込んで機能のところで差をつけての2段階のアンケート、例えば、既にもう作っていただいているので、これを例えば学校とか市役所とか、どっかに置かせていただいた上で、写真ベースのアンケート、見たい人は市役所に来てもらって、触るとか行っていったところが可能であればそれを知っていただいて、デザインをどれか1つに絞り込んで、その上で、この3つの機能の案を例えば同じデザインで作ってもらって、9月学校開始に行ったときに、アンケートして、1つに絞り込むとかっていう方法があるのかなというところで、皆さんとここの場で最終的に決めさせていただければなと思っています。

委員：そうすると、例えば1番を予備アンケートで調査した場合、9月に展示するっていうのはこれの色違いが展示になるっていうことによろしいですか。それとも色は変えられない。

ママダ：今回ご用意させていただいたデザインで、例えば1番のものは紺色に、

濃い目のブルーの切り換えをつけていますが、本日、明るいブルーにした
いというご要望を本日いただければ、次の展示9月の展示の時には、変え
たものでご提案をさせていただきます。ただデザインを来週、ご要望取り
たいってというような話もお伺いしているんですが、その時にはもう商品が
間に合いませんので、デザイン画をカラーチェンジしたものを、お配りさ
せていただくので、デザインずばりではないということでしたら、大丈夫
です。

委員長：ちょっとやり方は特にまだ決定はしてないと思うので、この中でメー
カーさんのスケジュール感も併せてご相談だと思いますけども、せっかく
試作品を作っているんで、ぜひ、今の時点で見触ってもら
てのアンケートが一番理想なのかなと思いますが、学校が夏休みに入っ
てしまうので、そことの兼ね合いになってくると思うんです。なので、本来
だと多分これを直接触ってもらって、機能面、デザイン面、それぞれ1点
ずつ選んでもらって、一番左のデザインで、2番の機能というような結果
が出れば、一番いいのかなと思っているんですけども、ちょっとそれが、
夏休みの制約上、出来なくなってしまうところがあるので、どうしよ
うかっていったところで少し議論させてもらっています。9月に今のやつでア
ンケートして、1のデザインで、2の機能とかだとちょっとスケジュール
的に厳しいというようなところを事前に事務局から聞いているんですが、
そこはそういうことでいいですよ。となると、例えば、学校側の先生
たちとのご相談ですけど、夏休みの展示とか例えば1週間だけ先生が、居
る早めの週とかに、あれを置いてですね、興味ある方は来てもらって、触
って選んでもらうとかってというようなことが現時点で出来るのであれば、
それも方法の1つとしてあるのかなと思います。それがちょっと厳しいの
であれば、例えばデザインだけ写真ベースのアンケートにして、1つ選ん
で、機能を3つにしたもので9月準備いただいて触ってもらって選ぶとい

う方法もあるのかなと思ってはいます。本当に生徒たちに触って、子供たちに触って見てもらって一番いいところっていうものを決めていけるかなといったところなんですけども、どうですか。

委員：はい。7月25日の週に面談があります。ただ、子供たちがみんな来るわけではないので、子供たちが来るのは9年生の三者面談になるので、保護者の方に見ていただくってということと、あと一部の9年生に見ていただくことであれば学校に展示するのは可能かなと思います。ただ、面談もご家庭によってZoomのオンラインという方もいるので、一律に全員に見ていただくっていう部分でいうとちょっと難しいとは思いますが、ただ一番目に触れやすいのはその7月25日かなと思っています。

委員長：ありがとうございます。委員の方々の進め方とかについて、何かご意見とかあればなと思いますけども、いかがでしょうか。なかなか我々だけで決めるのって難しいかなと思っているので、何かしらアンケートは採りたいかなと思いますけども。

委員：制服のアンケートを子供にやらせているのを見て思ったんですけど、機能面については彼らに判断することはできないと思います。見せられちゃうと、結局デザインしか見ないのであれば、素材については申し訳ないけど委員会に任せてくださいっていう考え方も私はありかなと思います。

委員長：はい、ありがとうございます。他、皆様いかがでしょうか。例えば今の3点で、7月25日周辺でアンケートさせてもらうとするじゃないですか。デザインはこれ、機能はこれという形で、ある程度意見が出てくると思うので、それを踏まえてこの中で議論して、どれか1点にするというふうにすれば、もう試作品を改めて作ることは概ねなくなってくるのかなといったところもあるんですけど、その時にはその試作品を作るところの期限が8月頭とかっていうお話なのかなと思っていたんですけども、8月いっぱいかけて、1つに絞り込むところを議論して、それで確定すれば、そ

の後のスケジュール的な問題は全くないと考えていいものですか。

ママダ：そうですね。元々9月に展示して、アンケートを取るというところから逆算をして、試作品をお作りするのに、大体8月の頭ぐらいからスケジュールはいただきたいですというお話をさせていただいたので、例えばもうこの3点の方で、デザインと素材の方も検討いただくのであれば、8月中をかけてご検討いただくことは可能です。

委員長：はい、ありがとうございます。そうするとやり方としてはさっきお話しした2つあるのかなというふうには思っていて、1つとしては写真ベースでデザインを決めるアンケートを今週ぐらいにさせていただいて、1つにして、3つの機能で試作品お作りいただいて、9月に実際に展示アンケートするという案が1つ。もう1つが現時点で学校に展示いただいて、アンケートを1回だけにするような形で、デザインと機能をそれぞれ選んでもらうみたいなバージョン。これは学校からの協力がだいぶ必要になってくると思うんですけど、そこを担保いただけるなら、そちらでもいいのかなとは思った次第です。もしこの2択で多数決を取るなら、皆さんどっちがいいのかなといったところで少しご意見いただければと思いますけどもどうでしょうか。

委員：先ほどの意見が、私もすごく頷いてしまうところがあって、機能に関しては、保護者のみなさんも我々で決めたことに対して、おおよそ納得するんじゃないかなというふうに思っています。なので今日、この日の中で多数決を取って、もう機能については1つバシッと決めて、あとデザインを9月の方が確実にみんな見てもらえるのであれば、9月に、3択で決めてもらうというのがどうかなと思っています。以上です。

委員長：そうですね。その案もありますね。はい。他、皆様意見どうでしょう。多分、保護者的には機能と金額のバランスで、決めたいのかなといったところがあるので、ちょっとこの場で、機能・金額のところを決めるのみな

かなかハードルが高いのかなというところがあるので、そこら辺を踏まえると、2段階アンケートがいいのかなという部分もありますし、悩ましいかなと思っていますけども。展示については、実際に出来そうといたしますか、この場で、OK 出せるものですか。

委員：面談期間7月25日から7月29日であれば大丈夫かなと。ただそれ以降については、ほぼ学校の活動が部活動なので、あと職員の出勤も結構まばらになってくるんですね、防犯上ちょっと制服の時も申し上げたんですけども、差し控えたいなと思います。不特定多数の方が不規則に来校する状態はちょっと8月は好ましくないなと考えています。あとメーカーさん確認なんですけど、全然話が違うかもしれませんが、そのデザインの範囲ってというのがちょっといまいち掴めなくて、結局、例えばここで1の素材を選んだら、2と3の柄を採用することができるっていうんでしょうか。そこまで変えられるってことですか。色も変えられるという認識でいいですか。はい。あとちなみに、なんでこの色を選んだんでしょうか。というのは、2番は隣の某学校の制服、ジャージをイメージしてしまうんですけど、もしかしたらその学校は取り扱ってないからわからなかったっていうだけかもしれませんが、何でわざわざ他の学校の色に似せたのかなと、2番、3番あたりもどっかの学校で見たことあるような感じなんですけども、選んだ基準を説明していただければと思います。

ママダ：こちらの色は当初の学園の森様のお色に合わせたものを、近いものということでブルー系を今回は選ばせていただいておりますので、例えば2番ですね、切替の水色のところを違う色にさせていただくとか、あとは3番のところも、ツートンカラーにさせていただいておりますが、身頃自体も全く変えたものもご用意はできますので、今回はあくまでブルー系という形で統一してお持ちしている形です。

委員長：はい、ありがとうございます。あと学校で展示夏休み中難しいという

ことなので、これ制服と一緒にすけども、そうするときやっぱり子供にも選んでもらうということで、デザインっていう話になってくるので、そうすれば、制服のやり方にちょっと戻ってくるのかなっていうところがあって、デザイン2案と機能の組み合わせで4案とか、6案作っていただく予定で調整しています。そういう視点で例えば、明らかに違うと考えたら、右と残り2点の左手のどちらかの1案の2案かなというふうには、ぱっと見何となく思います。それで機能を、例えば、2掛ける2とか2掛ける3の6点とか作っていただいて、9月にアンケートみたいな試作品の数を増やしてもらおうこととかその辺は対応可能かどうかというところはいかがですか。

ママダ：はい、その素材を変えて、試作品を作ってお選びいただくという形は可能です。

委員長：デザインと機能を変えた形でやっぱり子供と親に選んでもらう方が良い気がするので、例えば、7月にアンケートはしない方向で例えば、この場で、あの中から2つに絞って、機能のバリエーションを組み替えて、4案、6案作ってもらって、9月にアンケートするとかっていうことがあれば、さっき言ったようなところと、もともとの機能の中の組み合わせ的な形で、試作品のアンケートできるのかなと、学校も始まった後にアンケートできるので、ちょっと折衷案的な形かなと思うんですけどもどうですかね。それか、その前にこの3案から2案を選ぶアンケートするかとか、そういうところも当然ありますけども、その辺どうですかね。実際にこの場で2案に絞り込むという結論に達したとしたら、どうなんですかね、ママダさんの的にはお勧めとかは、どの辺を推したりとかっていうのは、あるものですか。

ママダ：特にはございません。

委員長：どうでしょう、委員の皆様のデザインと機能は多分いろいろバリエ

ーションをいただいておりますけども、価格面で言えば大差はそんなにならないのかなとは思っておりますけども、価格をもっと落とした案を作ってもらいたいとか、いろいろ意見としてはあるのかなといったところはあるんですけども、どうですかね。

委員：いや前回コンペで1社に絞り込むくらい私たちは決断力があるので、今日デザイン3つのうちから2つにして、機能のうち3つのうちから2つにして、2掛ける2に絞り込むくらいのことはしたいと思います。

委員長：集約の意見ありがとうございます。皆さんそれで、はい、お願いします。

委員：はい。先ほど見させていただいて、3つ目の袖が気になるんです。機能はとてもいいと思うんですが、やっぱり大きめを買うお子さん、3番目はどうしてもこう、袖がだらんとなってしまう感じがするので、例えば、袖は変えることはできますか。2番目とかのリブみたいな形で。

ママダ：そうですね。2案絞っていただくって話も出てますが、例えば残った2案の中での微調整も本日お伺いできれば、最後展示の際には、皆さんのご要望を入れたものを2案にデザインの方も集約させていただきたいと思っています。

委員：はい、ありがとうございます。そしたら2案に絞って、ファイテン使用のものと、3つ目の自社ブランドさんのもので、例えば袖がああいうリブ素材のものにしてもらうとかという形でもいいのかなっていうふうに思います。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。他は皆様いかがでしょうか。はい、お願いします。

委員：逆にちょっと先生方に伺いたいんですけど、実際に学校側からすると、適した仕様とか、そういうものがあれば何か先生たちのご意見とかも、伺わせていただくと今後の選択する判断材料になるのかなと思ひまして、教

えていただければなと思います。

委員：はい。この前、確かお話をさせていただいたと思うんですけどジャージが一番下まで下がるとなかなか指導が難しいとかっていうところをご対応していただいているので、特段学校の方から何かっていうのは、現状としてはないかなというふうに思います。

委員：ありがとうございます。あとメーカーの方に伺いたいです。さっき袖のお話があったと思うんですけど、実際やっぱり左側の方が採用率が多いんですかね。やっぱり今回ご提案いただいたんだと思うんですけども、普通のスポーツウェアとかだとよく見たりするような形態だと思うんですけど、今回違う形でということでご提案していただいたと思うんですけど、その採用率とかその意図というか、そういうのを教えていただければなと思います。

ママダ：3番のものにつきましては、素材の特性上、軽量というところが一番のものになりますので、附属関係につきましても、弊社のおすすめとしましては、「あ」、「い」といった袖よりも、今回ご提案のものの方が、全般的に軽く仕上がるということと、あと先ほどお声ありましたが、一般衣料もああいう形のもの、フリースとか多くなっているの、生徒さん自体も、着慣れている形には多少なっておりますが、やはり一番採用が多いのは、この1番、2番の大きめを買っても大丈夫という、多分保護者目線の形の採用が多いのが現状ではあります。

委員長：なかなか、結論には達しないと思うんですけど、私が気になっているのは、この機能面のところの違いで、多分、乾燥とかそういったところ。乾燥は一緒で、3つの機能面の大きな違いって言うと、1番はストレッチが一番効いてて、2番が一番丈夫で、3番は軽量、これが売りなのかなと思っはいるんですけども、その認識でよかったですか。逆に言えば、その辺でどこが、子供とか、特に保護者かな、ニーズが強いのかっていった

ところが、やっぱり我々として気になってるところで、その辺ちょっともう少し、一言で言うところの機能面の違いを少しアピールしていただけないかなと思います。

ママダ：そうですね。1番につきましては、お値段が安定していることと、ストレッチ性が良いことが断トツで、うちの中でも採用率が一番の素材にはなっています。今回ご提案している中では、一番安価な素材にはなりません。そして2番は、毛玉になりにくい。どっちかから見ていただいたら、ちょっと柄が入っているものになりまして、やはり柄があるものは引っかかりがしやすいというのが一番のネックだったんですが、そこを解消して、毛玉や引っかかりがないような、丈夫さが一番の売りの素材になっています。そして3番は軽量とコンパクト性。薄いのに防風機能がついているというのが一番の特徴です。

委員長：はい、ありがとうございます。どうも実際に丈夫さは2番なんですけども、どうなんですかね身長が大きくならなければ、1番とかでも、正直3年とか、どのくらいもつものなのとかはどうでしょうか。

ママダ：ポリエステルではあるので、どれも同等に熱方面には多少弱さは出てしまうんですが、1番の素材でも買い替えなく、3年間着ていただくことも、1番、2番、3番ともに問題なく丈夫には作っております。一応弊社の基準としましては、この生地の基本が、世の中のこのJISの基準が5段階設定しておりまして、一般衣料の場合は、2級から3級で店頭の方に提供するというようになっておりまして、弊社の場合は、4級から5級の間の位が取れないと、弊社の素材として採用しないというような基準はすべてのものにつけておりますので、丈夫さについては、どれも同等ではありますが、さらにというのが2番になりますね。

委員長：はい、ありがとうございます。今のキーワードでアンケートしても、保護者はどれが一番重要なのかっていうのは、ある程度、何か差が出てく

るのかなと思っているので、単純に、今週来週でアンケートして写真ベースのデザイン選んでもらうのと、今言っていたキーワード、機能面のキーワードのアンケートを選んでもらって、そこでどの辺に回答が集まるのかをちょっと参考にして、デザイン2、機能2の2掛ける2の4種類とかっていう形にした上で、8月の月上旬に、その結果をお伝えすれば、スケジュール的には大丈夫ってことですよね。そうですね。7月の月末にそのアンケートのご回答をいただければ、それで8月の月上旬から作成にかかるといようなスケジュールでお願いできればと思います。組み合わせ的には2つずつくらいだったら大丈夫ってことですよね。はい。どうでしょう。アンケートはそんな形で今週、来週前半くらいまでに取らせていただいて、2つずつくらいで選んで、お願いするというのが一番皆様の意向を聞いてバランス取れているのかなっていうところは思いますけども、どうでしょうか。なかなかこの場で決めるよりかは、ニーズもうまく反映してスケジュール的に間に合うのであれば、そっちがいいかなと思いますけど。はい、お願いします。

委員：この場で決めればいってちょっと乱暴なこと言ってしまったんですけど、委員長のそういったアンケートを採って、ちゃんと進めていくっていう方針に賛成します。あと指摘があったように、そろそろ我々として色をどうしていけばいいのかなっていうところですごく悩んでいて、個人的には、今日準備されたものを見比べると、やっぱり3番みたいな、ちょっと鮮やかなブルーの方が何か運動しようっていう気持ちが湧いてくるのかなっていうふうに思っていて、ちょっと1番、2番はこれ私の個人的な感覚ですけど、何かパジャマみたいな感じで何か薄暗い夕闇の中で何かちょっと溶け込んだような色なんじゃないかなっていうような懸念があるかなと思っています。もうちょっとこう明るい色とか鮮やかな色であってもいいのかなというふうに個人的には思っていますが、皆さんどうでしょ

うか。

委員長：はい、ありがとうございます。いかがでしょうか皆さん。はい、お願いします。

委員：今、アンケートを採るということですけど、この3点は学校さんに置いていただいていたアンケートではないのでしたっけ。

委員長：それは学校が厳しいということなので。

委員：アンケートを取るのであれば、今私たち今入ってきた時にこういうふう
に置いてもらえたら、ちょっと親近感というか、もう出来るんだなって、
実際置いてみると、今、学森でも中学生の制服は飾ってあると思うんです
けど、やっぱり置いておいて見られる方は見てくださってというふうにし
ておくと、これだけ話が進んでるんだとか、皆さんに思っていたけるか
なと思いました。

委員長：はい、ありがとうございます。はい、どうぞ。

委員：はい。私もやっぱり実際触ったり、これはデザイン画なので、この実物
というのはやっぱり見てみるとだいぶイメージも違ったりするので、ネッ
トでのアンケートにするにしても、写真を見て、どれぐらい本当の色とか
イメージが出来るかがわからないのと、やっぱり3点見て、同じ紺でも素
材の種類の違いだと思うんですけど、例えば1の素材の紺でももうちょっ
と明るい紺があるのかとか、色のパターンがどれぐらいで紺といえばそれ
は1つなのかとか、ちょっとイメージ違う色があるのかっていうのがあれ
ば、もうちょっと検討をしてみたいっていうのと、あと2番でいけばちょ
っとブルーのコントラストになっている薄いブルーのラインとかが若干暗
めっていいですか、見た感じやっぱり白が入っていたりした方がもっと爽
やか感があったりとかそういう一部分変えるとか、そういう色を変えると
すれば、何パターンぐらいそういう差し色っていうのがあるのかなとか、
このまま3パターンでアンケートすると、デザインは2がいいんですけど色

はもうちょっとこうだったらいいのになってという意見が、どのぐらい反映されるのなっているのが、疑問がちょっとあるかなと思います。この場でもうちょっと変えられるところを変えた上で、ものを展示出来たりするのかどうかというのを思いました。

委員長：はい、ありがとうございます。展示OKなのは7月25日から29日。7月25日から29日に展示をした上で、先ほどまで話したアンケートできるのが一番いいのかなと思うので、ここはもうそれでよろしいですかね。事務局大丈夫ですか、そのスケジュールで。

事務局：ちょっとスケジュールの部分はやはりメーカーさんのところにもよると思うんですけども、今回のこのアンケートというのは基本的には、実際展示をして、このデザインを基本的には選んでいただくもの。

委員長：デザインと素材、機能かな。それである程度ちょっと絞り込むための、アンケートみたいな形ですね。アンケートの内容としては本当にこれを展示して、デザインはどれがいいですか。その機能とか、素材っていうものは実際触っていただいて、そのもし3点を組んであれば触ってもらうのと、あとはアンケートの中に何て言うんですか、ストレッチが一番いいのかとか、毛玉がなくて丈夫なのがいいのかとか、そんな形の3択とかで選んでもらって、一番多いところのデザインと機能が一番多いところのデザインで、4パターンくらい作ってもらって9月に選ぶといったところが大きな方向性なのかなと、今までのお話をまとめると思っています。

ママダ：例えばなんですけど、例えば1のもので、素材違いのものをもう1点横に置いて、見ていただくとしても、ほぼほぼ同じようなもの。やはり私もでも、触っただけでは違うものっていうのが、わかりづらいと思っていて、やはり、最終的な9月のアンケートに関しては、もう絞り込んだものを展示した方がよろしいんじゃないかなと、逆にご提案したいなと思っております。それで、素材の方に関しても、できれば絞って、プラス、お値段の

方も、やはり素材違いのものをこのデザインで、素材違いのものという形でお作りすると、今ご提示させていただいている値段とは全く変わったものになってしまうということもありますので、やはり、今のこの時点ではおいくらですよということもちょっとお答えできないのが大変申し訳ないんですけども、結構変わるもんですから。

委員長：案1のデザインで、案2の素材だったら、何千円とかもアップするものなんですか。

ママダ：いきなり2,000円、3,000円の差が出ることはないんですけども、やはり数百円の違いは出るかなというイメージではあるので、そのあたりのところと、もし可能であれば、例えばもう素材の方はこちらで決めていただいて、デザイン及びカラーバリエーションというものを、アンケートで採って、決めていただくという形が一番スムーズにいくんではないかなと思います。

委員長：そうすると、試作品を作るのはもう1つのデザインと機能くらいにして色を変えるくらいにして、その前のニーズ調査みたいなところで、この3つの機能の言葉的なもの、素材を見てもわからないんで、ストレッチが大事、丈夫さが大事とかそのくらいで聞いたアンケートをあれの試作品を学校に展示してもらって、行ける人は学校に行ってもらって触ってもらう。無理な人は写真と回答を選択肢から選んでもらうってところで、デザインと機能の言葉、どの辺に意向があるのかっていうものを選んでいただいて、1つか2つくらいに絞らせていただいて、ちょっとあとは、先ほどもありました、色合いを少し変えた案を8月上旬に仕様をお渡しして作ってもらって、最後9月のアンケートとかがあっていうところが、今までの話聞くとそんなところかなと思います。スケジュールもそんなにずれないと思いますけどどうですかね。

事務局：事務局です。これをもし展示をすると、実際、見て触れるとなると、

多分、もうこのまま来るものだろうと思って、もう基本デザインと生地はある程度セットのものっていうイメージがあって、多分見た人は、そういうことを想定して、もし2回目のアンケートやったときに、当初のものと多分また違うものが出てきてしまうと、正直こちらの意図をどこまで保護者、児童生徒が理解した上でアンケートに回答していただけるかというところもあると思うので、難しくしてしまうと、ちょっと保護者さんとか児童生徒さんの方でも十分理解しないまま回答してしまっただけで、こちらの意図を汲み取れないまま、そのアンケートを回答してしまう可能性もあるので、その点をご留意をいただきたいと思います。

委員長：そうですね、その辺の説明の仕方、アンケートを採る時の前提条件の説明の仕方とかかなという部分もあるんですけど、その辺どうですかね皆さん。はい、お願いします。

委員：事務局にお尋ねしたいんですが、参考までに香取台さんの方の体操服の選考の状況もしくはその選考手順、できる範囲でご説明をお願いします。

事務局：はい。事務局です。香取台につきましても同じメーカーさんに作っていただいております、このような委員会の場で最終的な要望の方はメーカーさんの方にお伝えさせていただいて、実際もう作っていただいております、現在、島名小学校に実物を展示してアンケートを実施している状況です。香取台の方はですね、ジャージと体操服の半袖 T シャツのところなんですけれども、保護者さんのご意見のところ、ジャージとハーフパンツと T シャツは別個で要望をよく聞くような形でアンケートを採らせていただいております。

事務局：補足しますね。島名で今やっているのは、1、2、3というパターンでどれがいいかをまず選びます。それで、半袖についても「あ」、「い」、「う」とあるので同じように選んで、票が多いものがもう最後は決まるような形にはなりますので、素材を選ぶということはもうなくて、素材も含

めて1つのセットなので、それから選ぶということで、決まったものについて次の段階としては、例えば1に決まったとすると先ほどご意見があったように、色を変えてもらうとか、どこに文字を入れるとか、1つの決まったものを修正していくっていう形になるのが香取台の状況です。何とか9月までは時間が作れるので、決まった1つに対しても、修正できることにはなっています。

委員：修正の部分については、何か保護者と児童の意向というのは反映されるんですか。

事務局：今の段階はどれを選ぶか決めてるところなので、決まった後に今度また準備委員会でどうするかを話し合っていくとは思いますが。

委員：最終的なその微調整について、具体的に考えるのは、準備委員会の方で決めるんでしょうか。

事務局：アンケートを採るのか、準備委員会の中で決めるかということを決めていただくとと思います。

委員：香取台さんの方で、アンケートは1回きりの予定ですか。

事務局：今回はどれにするか絞るアンケートは1回しかやってないので、そのあとの修正とか、アンケートを取るかはまだ決まっていはいないですね。

委員：わかりました。

委員：素材について、やっぱり私はアンケートにかけるのは馴染まないんじゃないかなっていう気がします。理由として例えばストレッチがあるのがいっていうふうに思っていたとしても、ストレッチ性が要求されるのってAのデザインだけですよね。それは袖の付き方が違うから。他のBとCについてはラグラン袖だから、そもそもストレッチ性が不要なんです。それを考えると、素材について聞いたとしても、それが必要な要素なのかどうか、普通の保護者では判断つかないと思うんですね。そうすると、我々の意図がちゃんと伝わらないだけになってしまうので、先ほどどなたか

ご提案なさっていましたが、今回はデザインをどの筋でいきますかというのを聞いて、最終的なアンケートは色を調整するとか、そういうところで皆が参加すればいいんじゃないかなと思います。以上です。

事務局：よろしいですか。まさに今のご意見で考えられる分がありまして、保護者の方で、素材の違いがわからないとなると、果たしてこのアンケートを小学校1、2年生に実施して、例えば一番左のタイプの素材違いを並べて、子供たちが触って、それを理解できるのかなっていうのがすごい心配です。3つ並んで触ったら違うからどれがいいって言われても、その理解を大人でもできないとなると、小学校1、2年生に対してアンケートをやるならいいですけど、やるのであれば、理解はできるのか、ちゃんと本人たちが思ったものが最終的に反映されたものが採用されるかどうかということは、すごく心配しています。

委員長：はい、ありがとうございます。やるのであれば、機能のところは多分保護者だけでもいいのかなと思っているところです。どうしましょかね、なかなか、またいろいろ意見出てきましたけど、多分1回だけというか2回した方がいいのかなっていうのは、皆さん総意かなと思っているので、何を聞くのかっていったところが、なかなか決まりかねているのかなと思いますけども、せっかく学校も展示はOKという形なのでこれで、何かしらのアンケートは展示した形でしたいなと思っているので、アンケートを聞く項目を何にするかといったところを、まず決められればなといったところで、もう単純にそこで、デザインと機能も聞くけど、最終的にどれのデザインに対してどの機能にするかっていうのは、さすがにこの中で決めればいいと思うので、意向調査として聞くだけ聞いてみる。丈夫さとストレッチさとか軽さって、何かしらやっぱりストレッチの方が動きやすいからストレッチがいいねという人もいるとは思うんですよね。なので要望としては聞いておいて、この中で微調整をするっていうのもありかなとも思っ

たりはするので、これは意見が分かれるところだと思うんですよね。なので、その辺を踏まえて、真ん中と右くらいのもので、色合いを少し変えたものを2掛ける2で作って、それで9月にアンケートするのであれば、子供も回答しやすいとは思っているので、そんなところかなと思うんですけど、どうですかね。多分、アンケートしてすぐ色合いとかのご意見をまとめて、メーカーさんにお伝えしないと作れないと思うので、そこがちょっとタイトになるのかなと思っておりますけども、そこを決めるのに委員会を開催するというのは無理だと思うので、ちょっとメールベースとかで決めるしかないのかなと思うんですけど、どうですかね。実際にその辺を決めるのってというのは、委員会でないと駄目なんですか。それとも、電話、メールとかで大丈夫なんですか、その辺どうでしょうか。

事務局：基本的そういう合意を形成する以上は、基本的には委員会の方を設定をさせていただいて、そちらの方で、合意形成という形をとらせていただければと思います。

委員長：はい、お願いします。

委員：今、たくさんの方のご意見を伺っていて思うんですけど、結局、展示はしていただきたいんですが、今この時点でまだ私たちでもうやむやな状態で、これを出してしまっただけで、展示するなら毛玉ができにくいとかっていうポイントを展示しておかないと、何が言いたいのって皆さん考えると思うので、この1番目だったらストレッチ性が良い、2番目は毛玉にならない、3番目は軽量というのを、保護者の方に見てもらうのであれば、そういうふうにもうすぐわかるものなんですけど、でも今皆さんのお伺いしていると、今この状態のは見せないで、私たちである程度決めてしまっただけで、もう、完成に向けた、例えば色は変えられますけど、完成させてから、最後2種類から選んでもらうっていいのかなっていうふうに私は思いました。展示させてくださいって言わせていただいたんですけど、今、急いで

この1週間の間に展示しなくてもいいのかなっていうふうに感じましたが、どうでしょうか。

委員長：今の意見は、展示をなしでアンケートして、少し意向を探っていくということですかね。

委員：ある程度完成させて、先ほどの意見のように色を変えていけばいいのではないかと思います。

委員長：試作品を置くと、却って混乱が生まれてしまうので、単純に写真とかイラストとか、言葉ベースでちょっと意向把握をして、そこで出てきた意見を我々で揉んで、試作品を作ってもらった方がってことですかね。

委員：私たちの中でも悩んでいるので、保護者も意見が分散してしまうだけな気がします。

委員長：はい、どうぞ。

委員：今日入ってきて展示してあるのを見て、学森の体操服と生地が全然違うので、私がこっちでイメージしていた、多分保護者の皆さんも、このデザインを学森の生地でイメージした時と、実際この記事を見た時のイメージで全然違って、だからこの生地でのデザインを1回見ないと、多分、イメージと結構違うんじゃないかなってというのは、ちょっと思ったんですけども。はい。以上です。

委員長：なかなか難しいですね。どうしましうかね。そうなると、元を正すとやっぱりなかなか、どの辺に意向が強いのがそもそもわかってないので、なかなか我々も選びきれないところは確かにあるので、そうですね、振り出しに戻った感はしてしまっ、メーカーさんに申し訳なく思っていますけども、今のところ把握できているアンケートは機能とデザインと価格を選んでもらうアンケートしかしていなくて、優先順位的には機能、価格、デザインでしたっけ。

事務局：アンケート結果としてはデザインが一番低いです。

委員長：ですよね。全然まだニーズがわかってないので、我々も決めきれないなといったところにはなると思うので、そうすると、ものを見せてしまうと、先ほど事務局とからも意見あった通り、実際に作ったものとの乖離があって違うんだというところがあるのであれば、試作品を現時点で見せないで、どの辺のところデザインの意向が強いのかとか、どの辺の機能の意向が強いのか意向調査をせざるをえないのかなというふうに思うので、もう単純に色合いは、例えば本当にこの今回提案していただいた資料の3つのパターンで、まずどの辺のところの意向が強いのかを聞いて、なおかつ色合いをどの辺のところがいいのかといったところも聞いて、デザイン、色合いを次の委員会で決めさせてもらって、機能面も3つくらい聞いてもらって、どの辺のところ機能があるのかっていうのを決める。でもそうすると時間がないのでどうでしょうかね。挙手的なもので決めてみますか。委員の方でデザインのところで、1がいいなと思う方とか、挙手していただいていいですか。2の方は8名ですね。3は5名かな。この辺からすると、もうデザインは2か3なんですかね。はい、機能面のところ。ちょっとこの説明を聞いた限りでですけども、案1のストレッチ性を重要視したいっていう方は4名、2番の耐久性引っかけりに強いっていったところがいいと方は5名、3番の軽量がいいっていう方は、4名。となると、ちょっとそうですねデザインの的には2か3、機能面はなかなか割れる感じですね。はいどうぞ。

委員：ストレッチ性のある素材で、BやCのデザインをした場合、私はそれは型崩れしやすいってことに繋がるんじゃないかなとちょっと思ったりしたんですけど、それと、そのAの素材というのは、ストレッチ性だけでなく、安定供給だから安価だっていうこともありますよね。でもそれを、ああいうラグラン袖にしてしまうと、縫製の回数が増えるから、それだけ価格に反映するんじゃないかなっていうところがあって、それってどんな

感じですか。

ママダ：素材につきましては、ストレッチ性があるからといって型崩れしやすいということではありませんので、その辺はご心配いただかなくても大丈夫です。他のパターンによる価格面ですが、正直3のデザインにつきましては、先ほど説明させていただいた反射のラインが、なかなかお値段の方が高くはなっております。袖につきましても、ラグラン袖の方が、生地に対しての分量が多いという面ではやはり価格に反映はしてきます。

委員長：ちょっとデザイン的にはもう2か3だとこの中では出ているので、2、3のデザインと機能にストレッチを乗つける案が作れるとかなり候補の2案になってくるのかなと思ったんですけど、ストレッチを2、3に入れるのって、技術的に出来るのか、価格アップがどのくらいになるのかなっていったところはいかがでしょうか。

ママダ：今ご提示させていただいているお値段から、大きくは上がらないと思います。ストレッチの素材につきましては、先ほども申しましたように価格の方は抑えめになってますので、そういった面では上がりませんので、パターンを今のまま使っていただければ、今ご提示させていただいているものから大幅にアップというものは無いと思います。

委員長：はい、ありがとうございます。多分、保護者アンケートをもし今週、来週するにしても、今くらいのアンケートしかできないと思うんですね。このアンケートをやるか、我々の意向をそのまま採用しちゃうかっていうところなんですけども、どうですかね。これはやるべきか、もう委員会の意見を優先させるかっていったところだと思うんですが、どうですかね、多分正直今と同じようなところが結果としては出てくるのかなとは思いますが。やっぱりもちろん声を聞くっていうことは大事だと思うので、できるならやった方がいいっていうところはあるんでしょうけども、やるなら今のアンケートくらいかなと思いますがどうですか。展示はなしで、仮

にやるとしたら2、3のデザインで、機能もある程度決めて、あとは何ですかね、色を少し変えていく案を掛ける2で作るくらいにさせてもらって、4案で9月アンケートして、それで選ぶっていう感じが皆さんの意向も反映した落としどころかなと思いますけど、どうですか。一応皆さん頷いている感じなので、この提案資料を切り貼りするような形で、デザインと機能のアンケートをそれぞれ選択肢にしてもらって、2掛ける2くらいで。あと委員会を開催して決めないといけないといったところが1つまたネックになってしまうんですが、絶対条件なんでしょうか、そこは。

事務局：事務局です。次週、制服の関係で委員会の方は設定させていただいております。その時にはやはり制服の方にもかなり時間を要する形になるので、もうその場ですぐに結論を出せるような形であればいけるとは思います。展示をしないということであればアンケートの実施期間の方はもう今週早い時期に始めて、もう来週の週明けにも早々に切り上げて、そこで結果を出して、すぐにデータを開示させていただいて、それを踏まえて次回の委員会の中でも即決という形にしなければならないかなというふうに思います

委員長：事務局の負担が大きいのがすごい申し訳ないんですけども、いかがですか皆さん。もちろん何となく皆さんの的にはOKだと思うんですけども。事務局がよろしいのであれば、その流れでとは思いますが。

事務局：今回アンケートを行うにあたっては、現行の資料の方をベースに作り込んでいかななくてはならないんですけども、今、メーカーさんの方に作っていただいたものはデザインの他に、金額面とか、価格面とか記載のものがある形になるんですけども、今回のアンケートでいうと、今日この左上のデザインをベースに載せて、どのデザインがいいですかというところを取るものと、次は委員長の方から言葉で、このストレッチとか、丈夫さとかというのを問う。

委員長：そうですね。もしくはこの依頼デザインに関してこのイラストかもし

くはせっかくお作りいただいたんで写真とか、アンケートの調査票に入れていただいて、一つ選んでもらうアンケート。あとデザイン、機能の方に関しては、もう本当にこの提案資料の中にある素材のところの資料の切り貼りくらい入れていただいて、案1だったらストレッチ、案2であれば耐久性重視、案3であれば軽量重視とか、その辺を3択で選んでもらう形なのかなという感じですかね。あとはちょっと、色的なところで、もう少し何か要望があれば回答いただくっていうようなことをするくらいであれば時間的にできそうな気はしますが、どうですか、対応ができそうですかね。

事務局：確認なんですけれども。デザインはデザインとしてこの3つから選んで、機能は機能で、設問として2つに分ける。

委員長：うん設問は2つに分けるイメージで、1つでも2つでもどっちでもいいと思うんですけども、そんなイメージかなと。

事務局：メーカーさんにお伺いしたいんですけど、一応この左上のちょっとデザインの部分のデータの方を取り急ぎ、こちらのみいただくことっていうのは可能でしょうか。

ママダ：はい、大丈夫です。

事務局：メーカーさんに再度確認なんですけども、ここはこのデザインについて補足の何かこういうデザインの説明とかっていうのを、例えば右側に入れていただくような形というものは可能ですか。

ママダ：どれぐらいですかね。今回一番上に、一言というよりも、もう少し機能を、デザインのみの方がいいですよ。今回例えばお配りした資料では素材と、もちろんこれでということだったので、デザインの色のこと、そして一番売りと私たちが設定している反射のことを入れさせていただいているんですが、もうセットということであれば、ブルーベースの、というような、色のことだけデザインのことだけっていうような方が、皆さ

んおわかりになりやすいのか。もうこの3の商品につきましてはやはりこの反射の機能もポイントとはなっていますので、私たちは商品全体としてご説明さしあげることが多いので、どうしてもこういった形になってしまったんですが、お選びするポイントによって、皆さんがお選びしやすいようなポイントのみ書かせていただいた方がよろしいですかね。

委員長：そんなに深く考えずに、単純にこの提案してもらった資料のこの部分だけ切り貼りして、一言、ブルーを基調としたものですか、こんなレベルでいいと思う。そうすればイラストと大事な視点で選べると思うので、どうですか。素材の方もこの切り貼りと言、一番上にストレッチ重視みたいな形で、アンケートするのが簡単でいいかなと思ったんですけど。どうですか。

事務局：そうするとデザインの上にちょっと機能の説明まで入ってしまう。

委員長：設問はデザインと機能でそれぞれで。

事務局：よろしいですか。まずデザインを選んでいただくので、デザイン1、2、3、どれがいいですかという絵つけて、一行、説明か何かを付けてもらって、2番は性能なので、1番目は確かストレッチですよ。ですので、ここのストレッチの紫のマークを付けて、その下に、ここに書いてあるストレッチの文言を少し書いてもらう。2番が耐久性の部分だったので、耐久性のマークがないので、マークをつけてもらうかどうかしてもらって、3番は軽量でしたよね。軽量だったので軽量のマークがあって、一番コンパクトで軽いという文言もあるので、そのような形にいつてやるかどうかのイメージかなと思うんですけど。丈夫さの場合だと今ちょっと、ここのデザインがないので、作ってもらうかどうかの話だと思うんですけど。

委員：委員長がおっしゃったのは1番だったら現行のイメージを引き継いだデザインとか、2番だったら曲線使いのデザインが躍動感があるとか。3番だったら上下の色が違うということと、反射機能がついていて安全に配慮

したデザインみたいな本当に一行ぐらいでいいということだと思って聞いていたんですけど、いかがでしょうか。

委員長：課長がおっしゃったぐらいのシンプルなものでも全然いいと思うのではない。

事務局：ちなみに、2番の丈夫さのこのマークは別途にありますか。

ママダ：私たちの表現が、抗ピル、抗スナッキングという言い方が多分耳なじまなかったと思います。抗ピルが毛玉という意味で、抗スナッキングが引っかかりなので、わかりやすい言葉に変えさせていただいて、載せ直します。

委員長：あともう1つ設問がTシャツもこの「あ」、「い」、「う」で設問を入れていただければなと思いますので、設問3つぐらいで、いただければなというところですがあとは色合的なのものを、どう聞くかっていったところがあるかと思うんですけども、自由回答をしても多分集計が難しいので、色合いも我々で決めますか。少し微修正ぐらいのもの、はい、どうぞ。

委員：これちょっと色合いについて、ちょっと体操服と切り離して考えた方がいいかもしれないんですけど、これまで学校の名前決めて、シンボルを決めて、歌を決めようとしている中で、何かスクールカラーみたいなものってというのは、これまで、みんながそれぞれに何となくイメージを持っていて、決める機会がないまま来たのかなっていうふうに思っているんですけど、そういうのって決めたりはしますか、何か今の他の学校とかで、この学校のスクールからはこれだっというのはあったりするんでしょうか。もしくはあまり決めない方が逆にいいのか、決めた方がいいのか、ちょっとどうなのかなと思いました。以上です。

委員長：そうですね。そもそも学森ってスクールカラーはあるんですか。

委員：なんか緑の制服を着ているから緑をイメージされているのかな。森だから緑かなって勝手に思っていたんですけど。

委員長：多分あんまり明確に議論はしてないんでしょうね。今、回答がないと

いうことは。誰も知らないってことはそういう認識が全然行き届いてないってことなのかなって。はい。議事録でぱっと出てくるのであれば、コメントいただければと思いますけど。そもそも学校のビジョンとか、そういったものを本当はもっと最初に議論できれば、もちろんよかったんですけども、その辺って、学校が開校した後、先生たちが主導になって決めていただくような流れっていうのは事務局からは聞いているので、現時点ではなかなか決めきれない部分もあるので、そこはしょうがないのかなといったところで、基本的に校章のデザインの色使いら辺から、今、メーカーさんもご提案いただいているので、ここはもうそれを踏襲せざるをえないのかなとは思ってはいますが、はい。

委員：はい。アンケートを取るタイミングがあるっていうことでちょっと時間がないわけですけど、今なら間に合うところかなと思った次第でした。特に、強いこだわりはないです。

委員長：そうですね。どのカラーにしますかみたいな聞いてもいいのかもしれないですけどね。

委員：よろしいですか。伝統校とかではないので、これからこう作り上げていこうって学校なので、最初から1から100まで決める必要もないのかなと思います。今まで渡り歩いていて、この色が学校の色ですというふうにしていて、何か決めているところは、私の経験ではありませんでした。たまたま壇上に上がる校旗がこの色だから、じゃあこの色が緑だったからじゃうちの学校は緑なのかな、とかその程度はあったんですが、必ずしも体操服だとか、そういった制服すべてに反映する必要もないかなというふうに感じます。以上です。

委員長：はい、ありがとうございました。学校が開校してからまた先生たちの方、先生、生徒で話してもらって、何年か後にこういう制服とか、体操着を見直していただくという形で、この場はとりあえず落ち着いたかなと思

っています。アンケートは先ほど、お話した形で進めていただく形で、何か調整が必要なこととか。

事務局：すみません。メーカーさんにお伺いなんですけども、先ほどのお話だと時期については、デザインと機能のところまでこう分けてやるんですけど、T シャツについては、多分この機能あつてのこの白いデザインですとか、多分そういうところだと思うんですけども、ジャージと同様の聞き方をした方がいいのか、はたまたこのT シャツはもう機能とデザインをセットでもうこれですという形で、お伺いをした方がいいのか。

事務局：いいですか、確認なんですけど、これは透け防止っていうやつはそもそも透け防止のために白なんじゃないんですかね。他の色があるんですか。白しかなければ、もう機能と白はセットになっちゃうんじゃないかと思っています。

ママダ：「あ」のこのミエヌというものは、もう完全に白しかないものです。「う」の方も同様ですのでくっつけて考えていただくのが一番いいのかなとは思っております。切り換えの部分ですね、今資料の方で紺になっておりますが、このところを、例えば、今回、現物でお持ちした明るいブルーであったりとか、赤とか緑とかという形で、変えることは可能ですが、できればくっつけて考えていただいた方がよろしいかと思えます。

委員長：ありがとうございます。T シャツは2つ採用してもいいんですか。

ママダ：基本的にはもうこの形という形で最終的に1つをお選びいただいて、選んでいただかないと、やはり決まった後に、どれだけ販売店様がこう在庫を備蓄していただくとか、そういったところにも関わってきてしまいますので、できれば1つに絞っていただくとありがたいです。はい。

委員長：むしろと色違いの1点1点で自由に選んでいただくのがいいのかなと思ったんですが難しいということですかね。

ママダ：やはり採用された後に、例えば学校様のご指導のところとかにも関わ

ってくると思いますので、やはり形、色は1つにされた方がよろしいのではないかなと思っております。

委員長：指導的には統一された方がいいと思いますか、その辺どうですか。

委員：1色の方がいいと思います。

委員長：はい。わかりました。じゃあここは1色にするという認識でいきましょう。いろいろ意見はあると思いますが、設問は合体でいただければと思います。

事務局：最後確認になりますけれども、T シャツの部分について基本今回デザインと機能を載せるんですが、価格のところは伏せるような形でよろしいでしょうか。ここは一応、先のメーカー様のご説明ですと基本この機能とデザインをセットで選択していただくような形になるので、おのずと価格も決まってくるかなというところはあるんですが、ここを載せるような形にするのか否か。

委員長：皆さんはどうですか。今回は、価格まではいいかなとは個人的には思いますけども、どうですかね。領いてらっしゃるんで価格は控えましょう。他は大丈夫ですか。

事務局：アンケートの素案はすぐに作らせていただいて、事前に委員の皆さんに一応確認という形でよろしいですか。

委員長：はい、お願いします。

事務局：今のを踏まえて、こちらに一任いただいてもよろしいですか。

委員長：例えば明日の朝送って、昼までとかでも全然結構ですので、一応配信はしていただけないですか。期限短くていいと思うので。

事務局：かしこまりました。アンケートに使うちょっと JPEG 形式のような形でちょっとデータのほうをご用意いただきたいと思うんですけれども、このデザインのところと、あと、そうですね、一部紹介するデザインを紹介する一文と、あと機能のところの素材といいますか、はい。あと T シャツの

方もそれぞれ JPEG 形式でいただけたらありがたいです。

委員：機能面について1つだけ質問させてください。3番目は、防風、つまりウィンドブレーカーみたいなイメージになるのかなと思うんですけどそうすると、1番、2番に比べると、夏にはすごく適さないというイメージものになりますでしょうか。というのも、最近、夏でみんなどういう服を着て通学しているのかなと見てみると、結構ジャージの上を着て通学している人を見かけていて、暑そうだなって思ったりするんですけどもそうすると、何かこうウィンドブレーカー素材だと、暑いのかなと思ったりしたので、他に比べたらちょっと夏は適さない素材かなとかその辺で結構ですので、もしあれば教えてください。

ママダ：そうですね。ウィンドブレーカーのように風が通らないっていうふうには私たち説明させていただいてはいますが、ニットの素材にはなりますので、中から蒸れを逃がすという面では、1番と2番に引けを取るものではありません。ただししっかり網目を詰めて編んでますので、その分、多少暑いなど感じられる生徒さんいらっしゃるかもしれませんが、運動するっていうことを前提に作っていますので、中が蒸れないようには作っています。ジャージはどれを着ていただいても夏場は暑いと思うので、1番を着たら涼しいというようなものではないので、気になりはしないと思います。

委員長：はい。こんな形でよろしいですか。

ママダ：最後に確認だけさせていただければと思うんですが、アンケートの方は、いつからやられて、いつまでに終わりにしてっていうところと、あと、このデザインのデータですね、いつまでにお必要かとか、ちょっとスケジュールの具合を教えてください。

事務局：はい。よろしいですか。アンケートの実施期間については、可能であればもう本当に早い段階なので明後日ぐらいから。遅くとも金曜日で今日の土日を挟ませていただくので、期限の方は月曜ないし火曜日と、ちょっ

と早めの段階でさせていただいて、そのあたり 28 日にまた委員会がございまして、こちらの方でも最終的にメーカーさんの方にお伝えする要望というのは最終確定をさせていただいて、それは今月中にメーカーさんの方に、投げさせていただくようなスケジュール感でよろしいでしょうか。データの方につきましては、可能な限り早くにいただきたいんですけども、最短でどのくらいいただけますでしょうか。

ママダ：明日の午後、夕方までには、お送りできるかなと思います。

事務局：かしこまりました。そのスタートの部分は調整させていただきますので、データの方よろしく願いいたします。

委員長：もう PDF の切り貼りで JPEG 作れば良いと思うので、無理のない範囲で、お願いできればなとは思っています。他何かなければ、この辺で大丈夫ですか。

委員：メーカーさんにお伺いしたいんですが、デザインの部分については、学校名はまだ入っていない状態のデザイン。それともサンプルのような感じで入れ込むのかどちらなのでしょう。

ママダ：はい。学校名と入っていない状態でのサンプルになります。

委員長：学校名の方に関しては 9 月のアンケートの時には入っていないけども、そのあと入れてくださいって言えば入れられるってことでいいんですよ。はい。ではまたその時にその辺は、どういう入れ方をするのかは、そこでということで、はい。他なければ、長引いてしまいましたけどもこの辺でと思います。一旦事務局にお返しします。

事務局：はい、ありがとうございます。メーカーさん、大丈夫でしょうか。また適宜ちょっとご連絡させていただきますので、はい、よろしく願いいたします。議題の 1 につきまして以上となりますのでメーカーさんこちらでご退席いただく形でよろしいでしょうか。はい。ありがとうございます。メーカーさんご退席いただいたので議題 2 の方の制服、体操服の規則

の方について、議事の方進めて参りたいと思います。

委員長：はい。制服。体操服の規則ということで、事前に委員さん方で検討いただいていますので、今日は資料を準備いただいたので、簡単にご説明いただいてから、議論に入らせていただければと思いますのでよろしくお願い致します。

委員：はい。服装のルールの方ですが、まずどんなふう考えたのかというところからご説明したいと思います。この色はOK、この色は駄目とか、そういうところからではなくて、まずはこのスクールビジョン、学校がどういう生徒、制度にしていきたいのかな、どうあるべきなのかなというところから、服装のルールを考えました。ベースは事務局に確認しましたところ、さっき委員長もおっしゃっていたように、スクールビジョンというのはこれから学校が始まってから、研究学園中学校のものも先生方で決めていくことになりますので、今の段階において、ベースは学森と一緒に考えてよい。なので学森のスクールビジョンの中から、目指す学園像と組織目標というところから、まず、言葉を取ってきて、そこから服装規定の基本的な考え方をどう設定したらいいのかなというところを、まず持ってきました。そうしますと、一人一人が自己決定し、認め合い、高め合う集団作り、つまり生徒一人一人が自分で決定出来て、それぞれの他人が選んだものをみんな認め合える、尊重し合えるというものがスクールビジョンとしてベースになっていくのかなというところと、あとは私たちが標準服を考えた時に、まず多様性に対応できるものという意見は上がったと思います。なのでそこから考えると、服装規定の基本的な考え方、4つ、私の方でちょっと書いてみたんですが、ちょっとちぐはぐな感じが出ているのでこれから修正していくとして、ここに書きたいのは、皆さん自分で一人一人考えて決めてください、ですけどもこれだけは守ってください、これだけはやらないでください。そういったところを基本的な考え方として、いくつか

持ってきて、あとはこれを成功させるためには生徒にまずきちんとこの趣旨を理解していただかなければいけないと考えています。なので、そういう他人に不快な思いをさせてしまうようなこと、行動、そういったものは駄目なんだよというところをきちんと理解してもらい、そこがポイントにもなっていくのかなと考えています。ただこの4つだけで後は自分たちで考えなさいとは言っても、そうもいかないかなと思いついて、その2ページ目に、それぞれの項目に対する、補足のようなものを記載する。そういった形にしたらどうかなと考えています。なので基本的なところ、流れはスクールビジョンに基づいて基本的な考え方やってはいけないようなものを4つぐらい挙げて、そして、それぞれのパーツに基づいて、細かなルール、細かくといってもそんなに細かくなく、自分たちで基本は考えなさいというところをスタンスにしていけたらいいかなと思っています。

委員長：ありがとうございます。やっぱり、多様性の世の中になってきていますので、今のご提案は非常に素晴らしいのかなというふうには個人的に思っておりますけども、やっぱりこの辺って運用がすごい大変なってくると思います。特に学校の先生たちが、生徒に対して指導管理が多分大変なってくるのかなと思っていますので、その辺の視点から先生たち、何か意見があれば、お願いできますでしょうか。

委員：よろしいでしょうか。校則に関しては色々ところで今議論されていて、見直さなければいけないというところでは承知しております。現在の学森の組織目標毎に案を作っていたいただいているところなんですけども、この辺りの細かいところの規程づくりについては、この開校準備委員会だけではなくて、我々の方にもちょっと任せていただければなというふうに思うんです。結局この段階でルールが開校準備委員会で決まりました。後はこの通りやってくださいという流れになってしまうと正直、指導が今後しづらくなってきて、これまでのこの制服選定、体操服選定の議論の中で保

護者の皆様のお考えだとかっていうことは十分理解はしているつもりなので、現在の学森の規定がベースになり、そして開校準備委員会で出たこの方向性を踏まえて、あとはこちらで議論させていただければなあっていうのが、学校としての見解です。色々と具体例は挙げてはいただいているんですけども、例えばスラックスで、ハーフタイプのものだとか、それから体操服で、スポーツクラブ等で利用しているジャージの着用も可能だとかとか、そういったところではご提案はいただいているんですけども、その辺りも学校の方で議論をさせていただければなというふうに思います。それとここは開校準備委員の皆さんと学校との、ズレのところがあるんですけども、4番の標準服に準じたものを着用するというところはあるんですけども、その多様性を認めるというところでは確かに、対応していかなければいけない部分ではあるというふうには認識はしております。ただ、学校の中での統一感というところで、制服、標準服、体操服を選定をさせていただくわけですので、原則それを着用すると。ただし、色々な理由で、例えば洗濯が間に合わないだとか、服を揃えられなかったなんていう時に、画一的にご指導するんじゃなくて、その場に応じて指導するという意味で、他のもの、標準服に準じたものを着用認めるよというような認識なんですね。ただちょっと議論を伺っていると最初から自分の好みで、標準服以外の似たものでいいんだろうというようなものの着用を認めるとなるとこちらでも正直指導しづらくなるなというところがあります。そういったことも含めまして、こちらのルールづくりというのは、こちらを参考に、あとは学校で進めさせていただければなというふうに考えておりますのでいかがでしょうかということです。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。11月に確か新設校の説明会をされますので、そこではちょっともう出さないといけないので、スケジュール感はそのそれがマストという前提で、学校側で少し揉んでいただければなと思って

います。細かい言い回しはおっしゃる通りだと思うんですけども、裏面の細かいところ。標準服作るところのマルバツはもう今までの議論で決まっていますのでここは学校側としても、マルバツのところはどうか。

委員：もうこれについては、去年からの経緯もあるかと思うので、この方向で進むということで認識はしております。つまり、丸がバツになることに関しては議論はないかと思うんですけど、バツが丸になったらまた議論が再燃してしまうのかなというところではありますが。マルバツに関してはこの流れでいくのかなというふうに思います。ただその細かい文、運用というところで学校で結構決めていただいさせていただけたらなということです。

委員長：はい。マルバツのところだけフィックスにさせてもらおうということで、標準服に準じたもののところの細かいところは学校の中で色々考えていただければなと思ってはいます。あとなんだろうな、この辺で言えばリボン、ネクタイが指定ってなっていますけども、ここだけ指定というのがちょっと資料だけ見ると違和感があるんですけど、その辺ちょっとコメントいただければ。

委員：ここを指定とした意味はですね、ブレザーは一応推奨品はあります。ただ、一応今この意味を私が書いた意味をご説明しますと、ブレザーは推奨品はあります。ただ、着心地、素材、自分では違うものもいい。そういう場合には、色を似せたもので他の一般のところから購入しても良い。そういう意味で丸にしています。指定というのはもうリボンのカラーが決まっているので、この指定販売店でこのリボンを買ってください。そういう意味の指定。購入するものは1種類しかありませんよ。他は準じたものであれば、なのでスラックス、スカートにおいては、イメージとしては竹園東中学校のように、ある程度基準はあるけれども自分で、柄とか、もちろん長さはある程度決まっているとしても、ひだの形だったりそういったも

のを自分で選べる。自分で考えて選択できる。そういう意味で丸にしました。それでバツはもう、標準服としてその指定販売店には置いてないので自分で学校のルールに則って選んでくださいねっていうところの意味で指定と書いていました。ここの標記の仕方はちょっとわかりにくいので、そこは考えます。すいません以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。ちょっと細かいところは学校で詰めていただいて、また、どっかのタイミングで、議題に上げていただければなと思うんですけども。来週制服の打ち合わせがあるので、制服のところで気になっているところで、校章をどうするかを話しておければなと思っているんですけど、制服に校章を付けるか付けないか、そこは付けた方がいいですかね。先生たちは学校としては付けた方が、一体感があっていいのかなと思うんですけども、どうですかね皆さんの。はい、お願いします。

委員：ブレザーに関しては、学森のブレザーも着用がOK。そういう認識でいます。そうすると学森から移動してくる方々っていうのはわざわざ付け替えさせることはないんじゃないかなと思うので、そうすると、必須でなくても、というかもうちちょっと簡単なもの。そんなにワッペンにこだわらなくてもいいかなって思ってしまうところがあります。何かクリップタイプみたいなのがあったと思うんですが、簡単に着脱できるものとか、自分で貼りましょうっていうと、やらないご家庭も絶対出てくると思うので、体操服なんかもそうだと思うんですけど。

委員長：ありがとうございます。クリップとか、ピンバッチタイプとか装着は簡単なものとかって、どうですか。

委員：また指導が増えるなあと。名札の着用でも、かなり頭を悩ませるところがあるので、さらに校章まで加わると、ちょっと指導が大変な光景が目に見えます。それで確かに、今学森にいる子たちが移った時に学森の制服をもちろん着ていいです。だからといって校章をつけることに意味があ

るのかっていう。意味がないのかというと、やっぱりそうではなくて、少なくとも、今の6年生ですよ、初めて研学のブレザーを買う子供たちについては、もう既に付いてあっていいのかなと。それを学森のこと併用だから、なくてもいいんだよって、新しく買う制服はクリップタイプにしないでいいのかなと。ただ、汎用性っていうことも話題にはなったので、ワッペンぐらいでクリップよりは、少し取り外しが容易でないというか固定化されたようなものを用意すればいいのかなというふうには思います。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。そうしたら標準服は備え付けがベースで、それ以外の方をチョイスした方々のフォローとして、クリップタイプとかをメーカーさんが作っていただけるのであればっていう形で来週は、ご相談していく形でよろしいですかね。

委員：すいません。だからといって、備え付けにするからといって、転入生だとか、学森から移る子が付けなきゃいけないということにはならないかなとは思いますが、そこは誤解のないようお願いできたらなというふうに思います。徐々に新しいタイプのものを揃えていくといったような、認識で提案したいなというふうに思います。

委員長：はい、運用はわかりました。

委員：今付いているものを付け替える必要はないけれど、新しく買う人たちは、校章をつけてくださいっていう話でしたけれど、その校章が付いている、付いていないについて指導することの教育的な意味って何なんですか。自由にすると指導しなきゃならないっておっしゃっていたんですけど、そもそもそのことを指導する必要があるのかなっていう疑問です。

委員：名札をつけるか付けないかというご議論にもなってくるかなと思うんですけども、名札をつけて生活しましょう、ワッペンをつけた状態で生活しましょうといった、規則を作った上で、やっぱり名札なかなか付けなくて、

名札付けなさいなんていう指導はしているわけですよね。ですので、そんな規則なければいいじゃないかというふうになってしまうと、例えば名札を校内でつけるのには、必ずしも生徒と同じ学年に所属している職員が指導するわけではないので指導する時に名札を見てこの名前を覚えるなり認識するという意味で名札というのは意味があります。それで、校章を制服につけるということでは、やっぱりその学校に所属感というか、そういうことを高めるという意味で、ワッペンをつける意義があるかなと。まずそれをつけて生活しようということであれば、そこはもう自由でいいよということではなくて、子供たちにその意義を理解させて、指導はしていきたいなというふうには考えています。

委員：私もですね、去年初めて来た時、子供たちの制服見て校章がかっこいいなと思ったんですよね。子供たちも満足そうだし、その学校に対する誇りを持つというか、そういう意味では非常にいいなと思っています。そのピンバッジとかクリップで、この胸に付けるというのは、バッジをつけるみたいで、なんかこうしっかり固定されていなくて、ちょっとあんまり格好も良くないんじゃないかなと思います。大人もここにエンブレムでブレザーに付けている方もいますけど、非常にそれはかっこよくて、安定しないとあんまり良くないなという。私の感想は持っております。はい。

委員長：はい、ありがとうございます。標準服は付けた方がいいんだろうなというところで、意見がまとまるのかなというところで、標準服に準じたものを選ぶ選んだ方に対してのフォローをどこまでするのかというところで、あった方がいいと思うので作れるかどうかというところをメーカーさんに聞いて、作れるのであれば準備してもらうのがいいのかなと思うので、そんな形で校章は来週メーカーさんと相談させていただければなあといったところですか。あとはこのメンバーの中で決めていけばいいものかなと思うんですけど、メーカーさんと調整することは何かありますか。

委員：メーカーとの調整ではないんですけども、またこれは学校への要望というか学校との確認になるのかなと思うんですけども、ブレザーは授業中は必須とか、そういった運用面が実際どうなっているのかなっていうところをお伺いしたくて。暑かったら脱いでいいのか、きつかったら脱いでいいのか、やっぱり基本は授業に快適に集中できること、これが基本だと思うので、無理に着させることが目的ではないのかなって感じたりはするんですけども。そうするともう通学も同じかなって思ったりしています。

委員：はい。まず今の学校の環境でいいますと、例えば、今この時期なのでブレザー着ている子はいないんですけど、かなり空調も整っていますし、以前に比べては快適に校舎内で生活ができる状況にあります。あと子供たちに配っている学森ライフっていうこれにいろいろ決まりが書いてあるものがあるんですね。これの中でこのベストやセーターのみの生活についてというものについては、これは駄目ということになっています。今回子供たちが、これに関してはルールを変え、自分たちでルールを考えようっていうことで検討の課題として1つこれ出たんですね。教室であれば、ベストやセーターのみの着用でOKかどうかっていうことで検討をしてきました。結論から言いますと、ベストやセーターのみの生活は原則なしということになりました。というのも、やはりこの今日の資料の2枚のところにありますように、セーター、カーディガンというのは標準服として推奨されていないものなんですね。ですので、皆それぞれある程度の色の指定はあるんですけども、皆それぞれ学校指定ではないものを着ていると。それを状況に応じた対応となると、なかなかこれも、学校としても指導が難しくなるかなというところもあるのが現状です。はい。以上です。

委員長：はい。細かいところは多分今日決めなくていいと思うので、学校の方で少しまた、今の状況とか踏まえてまた、修正するような形で、次かその次かの委員会でまた提示いただければと思いますので、エクセルデータと

かを先生にお渡しして、また少し揉んでいただければと思いますので、よろしくをお願いします。

委員：先ほどの説明聞いて、そのスクールビジョンからの考え方、素晴らしいなというふうに感じたんですが、この服装の規定の方ですね、これも一つ一つ見てみると。せっかく考えていただいていたんですけど、現在の学森と比べると、たくさん違っている部分があって、これを新しい学校の子供たちに適用してしまうと、大きな変化で、子供たちも迷ってしまうようなところもあるし、自由すぎるというところも実際あるというような感じを受けております。はい。開校した後の生活の規定は、その学校の方で責任持って、決めるところなので、学校に帰って十分検討して、作りたいと思いますが、これとは大分変わってくる可能性があるということは、ご留意をお願いしたいなと思っております。以上です。

委員長：保護者側の要望としてあまり決めすぎずに、生徒がやっぱり考えて、主体性を持たせて、使ってもらおうといったところが一番の思いとしてあるのでですね、決めすぎずに、良いところの塩梅を決めていければなといったところでご検討いただければと思います。今日何か改めて伝えておくこととかあればと思います。はい、どうぞ。

委員：スカートのところなんですけれど、資料でキュロットタイプの着用可能としていることについて、私はこれは大賛成です。なぜかというと思った以上に自転車で通っている子が多いので、それを考えるとスカートよりもキュロットの方が、動きやすいかなと思います。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。はい、お願いします。

委員：大きなところで服装規定の基本的な考え方、4つなんですけれども、今、案として出していただいたやつですね。私としては、1番の中学生らしく爽やかな服装を着用すると、これがもうすべてなのかなというふうに思っていて、これを満たしていれば2番とか3番っていうのは、自然と含まれ

てくるというか、なくてもいい、みなし規定として当然標準服を着ればそこを満たしていますよと、そういうふうに、考えているんですけど、3番とかはちょっと私としてはすごくなじまない部分があって、日本人の同調性というか、目立つのは駄目という、そういったところを強調しないような形で、生徒さんもしっかりそこに期待に応えてくれるというような形であって欲しいなというふうに思っています。以上です。

委員長：はい。ありがとうございます。この表面の資料とかって学校開校した後に改めて考えていくのが一番いいのかなと思っているので、多分11月の時に保護者とか子供に必要なものって、標準服を買わない人に対してどこまでOKなのかといったところは、多分提示しないといけないと思うので、そこだけある程度明確にしておく必要があるのかなと思います。それ以外の基本的な考え方とあって多分なかなか、4月以降に赴任される先生が考えないと多分、元も子もない部分もあるので、方向性だけある程度作るにして、本当に11月に見せるか見せないかっていうところはちょっとまた改めて議論させていただいてですね、裏ではもう、この辺の資料を持つにしてもオープンにするのはもう少し絞るとかですね、その辺は、これから少し考えていければなと思っていますので、その辺の視点も踏まえながら学校の中で検討いただければなと思っています。

委員：先ほどからもいろいろお話をさせていただいている服装に関する事とか、学校側として何が一番心配かという、最初に緩いルールを作って開校しました。やっぱりこれでは駄目だからもうちょっとこうしようっていう。簡単に言うと緩いルールから厳しいルールにするというのはかなりハードルが高いんですね。これはかなり難しいことです。ですので、ある程度の枠の中で、例えば開校して、子供たちの様子とか、そういうのを見ていく中である程度ここは大丈夫だろうっていうことで、だんだんハードルを下げていくことはできるんですけど、ハードルを上げていくということ

はなかなか学校としても、そこが心配かなっていうところもあるので、その辺が学校側の本音として言えば、一番のところですよ。以上です。

委員長：前の委員会で、学森の準備委員会の際に資料の規則があったと思うんですが、あっちに寄せていくところで、今の資料との良いバランスをという感じだと思うので、その辺でちょっと折り合いをつけさせていただければなと思っていますので、そんなイメージで皆さん認識いただければなと思っています。皆さん、改めて大丈夫でしょうか。よろしいですか。ではここは学校の方でちょっと宿題的な形で、申し訳ありませんけども、検討いただければと思います。続いて次の議題。次がスケジュールですかね、資料4、こちら事務局から説明をお願いしてよろしいですか。

事務局：資料4について議題の1番の方にも関わってくるんですけども、今回の議事の内容を含めまして、このスケジュールの案のところはかなり引き直す必要があると思っています。アンケートの方、9月に実施の案ということで事務局案としてお示しさせていただいておりますが、一応こちらの方は、次回委員会もございますし、その後メーカーさんに作っていただいている期間もございますので、その期間を踏まえて、皆様と協議をさせていただきながら決めていきたいというところはあるんですけども、事務局の案として、想定してるところをご説明させていただくと9月のアンケートの時点ではサンプルの方、学園の森義務教育学校の施設内に置かせていただきまして、回答の方はですね、今回学校さんの方からも児童生徒の方にも実際に触れて、アンケートの回答いただきたいというところを踏まえまして、児童生徒さんには、それぞれ回答いただいて、保護者さんはこれまでの校章、校名と一緒に1家庭1回という形の回答をさせていただきたいというふうに思っています。実施期間も大体2週間程度取らせていただいて、学校が始まってから、9月1日から9月15日というところを想定しています。通知方法の方も今回の制服のアンケートと同様、学校の方で

お配りさせていただくものとスクリレ、緊急メール等でお知らせという形で、取らせていただきたいと思います。質問項目については今後また皆さんと、議論させていただきながら詰めていきたいと思っております。資料の方はちょっとざっくりですが、こういった説明になります。今後のスケジュールというところで改めてお示しをさせていただいているのが資料5になります。今回、開校準備委員会の方で各種の項目検討いただいております、もう校名、校章についてはもうすでに決定いただいております。校歌の方も前回の委員会の方でこちらの方にちょっと一任という形で進めさせていただいております。今後、実際に委員会の方で決めていただくところとしてはですね、今回今進めている制服・体操服のところになります。規則のところはですね、現時点で11月の説明会は予定はしているもののまだ確定ではございません。その時に本当にガチガチに固めた規則のところをお示しするというよりもですね、もしそこまで固まっていればお示しするんですけども、ある程度方向性が固まっているようであればそういった案という形で、お示しをして、その後最終確定したものを公表という形も取れると思いますので、そういったところを1つのゴールとして見ていただければというふうに思います。通学路のところにつきましてはですね、学校さんと協力して進めさせていただいております、現在の進捗の方をご報告いただけますでしょうか。

委員：はい。新設校の通学路の危険箇所について、事務局の方から依頼を受けまして現在の進捗状況なんですけれども、先日の7月10日の日曜日にですね、通学委員の会議がございました。ここで担当の方から口頭でこういうことをやりますよということをまず依頼をさせていただいています。これは明日になるんですけれども、それぞれ各地区の代表の方にメールで依頼をして、夏休み中に実際に歩いていただいて、その危険箇所の点検を実施していただいて、8月24日に締め切りをすると、資料の提出が31日だっ

たと思いますので、そこまでには提出するような形として、現状今進んでいるところです。以上です。

事務局：ありがとうございました。そういった形で通学路の方は動いております。その他というところで、PTA のところになるんですけども、ここはキックオフという形で委員長の方に PTA 本部の方のちょっと資料を手持ち資料としてご用意いただきまして、こちらのところ委員長の方からご説明いただいてもよろしいでしょうか。

委員長：はい。ちょっとその前に通学路について少し質問させてもらってよろしいですか。まず、通学の道、通学路そのものは、どういうスケジュールで決めていかれる形ですか。もう決まっているんですか。

委員：通学路そのものについてはまだ決まってないんですけども、ある程度子供が、それぞれ学校まで通るであろう道を点検してくださいということをお願いはしています。

委員長：実際に通学路をいつ決まるんですか、その辺は、どういうアプローチで決めるのかを教えていただければなと思いますけども。

事務局：ルートの方を事務局で決めるというよりは、実際にまた PTA の通学委員さんですとか地区役員さんの方に実際見ていただいて、一応通るであろうルートっていうものを出していただいて、それを踏まえて、決定していく。

事務局：通学路っていうのは、基本的にはどの学校も、保護者さんがここを通ってきますって学校さんに申請して、学校長がそこでいいですよってなれば、それで初めて通学路って認定になるので、教育委員会が認定しているものではないんです。ただ、今回新しい学校で校長先生もまだいらっしゃらないので、我々としては、皆さんがここを通るであろうところを出していただいて、前もってそこを準備しないと対策がとれないので、そこを対策した上で、そのあと、登校班ができるかどうかもまた別の話にな

ります。ここを通りますよという申請があって、新しい学校長がそこがいいですよということになれば、それが初めて通学路ということになるので、想定されるルートっていうのは何通りもあると思うので、そこを全部、くまなくどのルートを通ってもいいように想定してやっていきたいなと考えています。

委員長：はい、説明ありがとうございます。各地区の通学の方がそういう認識を持っていただいているのであればいいんです。そういう説明をしていただいているということでもよろしいですか。では地区からこの希望ルートと、その中で危険な箇所みたいなものを8月24日に上がってくるということでもいいんですよね。はい。よろしいのかなというふうに思いました。通学路について何か皆さん、質問とかありますか。大丈夫でしょうか。PTAの方ですね組織編成をこれから検討していかないといけないんですが、私もいろんなところから情報が入ってきて、特に通学の地区の担当の方々が、新しい学校の通学の方針がどうなるのかっていったところを心配なさっている声はいくつか出てきまして。というのはですね、通学の地区担当の方って、早い地区だと10月くらいから次の委員さんが決まって、12月頃にはもうほとんどの地区で次年度の委員さんが決まるということもあるみたいでして、その辺のところである程度方針をちょっと見出さないと、いろいろ心配の声が上がってくるかなといったところで、そろそろ動いていければなと思います。前提としてそもそもPTAを作るか作らないかといったところから議論をしていかないといけないと思うんですけども、学森のPTAの方で、実は今年ですねPTAを継続するかとか、縮小するかアンケートを採られています。多分皆さんも、回答されたかと思うんですけどもその結果をですね私の方でちょっと借用してですね、この委員会で皆さんに紹介していいかって許可を得てきまして、それをちょっと今回ご紹介させていただいております。表面は、加入率ということで、学森のPTA自体は加

入届とかそういうものは導入していません。いろんな、費用とセットで PTA の会費は払っていただくような仕組みになっているはず。めぐっていただいて1枚目のところが基本データといったところでこの辺はあれかな、アンケートの回答者の率ですかね。9割くらい、全体で88.3%ということで結構な方が回答いただいているので、ニーズの基参考資料としては有効なものかなというふうに思っています。ここでみたいのは、PTAの実績ですね、学森ですと過去に PTA の役員やった方であればもう、以降は免除みたいな形になってはいるんですけども、かなり実績保有者が多くなってくると、例えば、新しい研究学園小中学校で PTA を設立して、学森の実績を加味するというようなやり方にした場合に、今後になってくれるような人が少なくなってしまうといったところがありますので、例えば規模の大きい組織にすると、なり手がなくなるっていうようなところは課題としてあるといったところになります。次のページが、この辺はあれですね、ちょっと細かい資料なので割愛して、最後の裏面のページを見ていただければと思うんですけども、ここが PTA の組織そのものに対するニーズ把握といったところの結果なんですけども、資料の真ん中の左くらいが、PTA を拡大したいって方がオレンジ、現状維持が緑、縮小が青であると未回答といったところがあるんですけども、そうですね縮小といったところは5割強という形で非常に多く、続けるにしても現状維持ってことで少なくとも現状維持以下がニーズとしては大きいのかなと。このうち、新設校の方に通う卒園生といいますか保護者の方々の意見だけを抽出したものが、この右の丸い小さい円グラフなんですけども、どうも研究学園に行くエリアの方々は縮小の意向がかなり全体より強いというような形になっています。この辺からですね、学森の PTA の方々も、PTA の組織としてはやっぱり、現状維持もしくは縮小でなおかつ、なり手が最近少なくなっているということを見ると、縮小の方がいいのではないかなといったところ

の考察をこの辺の下のところかな、拡大は少なくとも歓迎されていないということコメントとして入れているといったところから、学森に通っている保護者側のニーズとしてはこういったものであることを認識いただければと思います。今日はちょっと細かい議論はしないつもりですけども、皆さんの方でいろいろ、今日のニーズとかお持ち帰りいただいて、PTA を組織するのがいいのかどうかといったところですか、実際に組織するのであれば、この辺の規模感でやるのがいいのかどうか。もしくは組織をしない場合にどういう代替組織があるのかどうかといったところですね、事例とかも収集していただきながら、次以降の委員会で少しお話できればなと思っています。その時に過去の準備委員会で、学森はご存知の通りですけどもみどりのとかが同時期に開校して組織しているんですけども、みどりのですと PTA は立ち上げていないんですけども、似たような組織でサポーター組織みたいなものを作っていっちゃって、簡単に言えば学森の PTA を簡素化して、PTA と呼ばないみたいな形のものを作っています。そんな形で、ちょっと議論していければなと。PTA 私も去年役員やっていたのでいろいろ分かりますが、やっぱりないと学校と保護者のパイプがなくて、コミュニケーションが取れないですし、学校の何ていうんですかね、予算だけでは購入しきれないものを、PTA の予算とかで少しフォローしてあげるというようなところもありますので、そういったところもメリットがありますので一概に縮小、作らないということではなくて、何かしらのものは絶対必要なのかなというふうに思っておりますので、そんな認識で皆さん少し考えていただければなと思っております。何か、先生たち補足とかあればと思いますけども、どうですか。

委員：はい。この保護者の方の支援組織というのはぜひこの開校準備委員会で議論をしていただいてより良いものを作っていければなと思いますので、いろいろなご意見をいただければなというふうに思います。よろしくお願

いたします。

委員長：保護者側の委員の方で何かありますでしょうか。私の方で気になっているのは、通学の時の組織。はい、お願いいたします。

委員：私もこの研究学園に移る方の中で縮小の意向が多いというのは感じる肌の温度感とも一致していますし、おそらく、コロナの影響は相当に大きくて、そのコロナによって、学森はかなり影響大きいと思いますが、いろいろな保護者が学校に関わるようなイベント関係が、縮小もしくはなくなったり、それによって、それまで必要だったいろんな PTA の体育だったり、委員さんの活躍の場が結果的になくなって減ってしまった。それによって、特に昨今は PTA の加入の問題や PTA の意義についてかなり社会的にも熱く、議論されて、そういう社会的な追い風、コロナが重なって、かなり PTA に対しては、風当たりが強いのが昨今だと理解しております。かといっても、先ほど委員長と学校の方の話がありましたように、何かしらの学校と保護者の橋渡しをする組織が必要で、それが既存の PTA の形なのかそれとも、もしくはみどりののような、新たな別の形なのか。その辺は、今後その準備委員会や、その他の場でのその議論を持つ必要があるのかなど。ちょっとまとまりませんが以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。時間かけてやっていければなといったところもありつつ、通学だけはちょっと急がないと、いろいろ大変だと思うので、保護者側の委員の代表者を募らせていただいて、学校側の方も、ちょっと通学の担当の方とか、あと今年の本部 PTA の通学担当の方とかを交えて個別で少し調整をさせてもらいたいなと思っていますので、そこで少し揉ませていただいて、ここの議論に上げさせていただいて、議論を深めていくというような形で詰めさせていただければと思いますが、皆さんよろしいですか。どなたか保護者側で、その役割を担ってくれる人とかが出てくると、ありがたいなと思っていますので、この辺また調整させてい

ただければなと思います。何か意見ありますでしょうか。大丈夫ですか。

はい。先生たちも大丈夫ですか。長々となってしまいましたけども、これで議題は終了したと思いますので事務局にお返しいたします。

事務局：はい。委員長、進行含めてありがとうございました。一応、最後の委員長からも振っていただきましたが特段ご意見等よろしいでしょうか。本日は長時間にわたりましてありがとうございました。これをもちまして第12回（仮称）研究学園小・中学校開校準備委員会を終了させていただきます。ありがとうございました。

4 閉会